

## 長崎県植物誌ノート(30)

中西 弘 樹<sup>1)</sup>

### Notes on the Flora of Nagasaki Prefecture (30)

Hiroki NAKANISHI<sup>1)</sup>

**Abstract:** Four domestic species and, one species and one forma of alien plant which were newly found in Nagasaki Prefecture and twelve rare species were described in this paper. The distribution maps of *Cyclosorus interruptus* and *Carex matsumurae* were illustrated. It was found that the localities of *C. matsumurae* are chiefly restricted to small islands.

#### はじめに

本研究は長崎県のフロラの解明を目的とするもので、主として外山(1980)の「長崎県植物誌」および松林(1981)の「長崎県シダ植物誌」の目録に記されていない、いわゆる県新産の植物と、希産種の産地追加を記録する。記載の形式は前回までと同様である。一部の植物の生育地は長崎市の佐藤太氏、佐世保市宇久町の大岩保雄氏にご案内いただいた。厚くお礼申し上げる。

#### 県新産の植物

##### 新産の在来種

315. ツクシオオクジャク *Dryopteris handeliana* C. Chr.(オシダ科)(図1)

長崎市悪所岳 [長崎2, 4929-07-11], 380m, Sept. 22. 2006 (No.20074)

オオクジャクシダに似ているが、小型で、胞子嚢は羽片の縁辺につく。佐藤太氏が発見されたもので、現地を訪れ確認した。

316. アサマイチゴ *Rubus asamaensis* Sugim.(バラ科)

雲仙市雲仙妙見岳 [島原3, 4930-12-03],



図1. ツクシオオクジャク(長崎市)

1300m, July 30. 1995

ミヤマニガイチゴとクマイチゴの雑種である。妙見岳から国見岳への尾根沿いに生育している。

317. トウカイコモウセンゴケ *Drosera tokaiensis* (Komiya & C. Shibata) T. Nakamura & Ueda (モウセンゴケ科)

かつてカンサイガタコモウセンゴケとよばれていたもので、中村・植田(1981)によってコモウセンゴケとモウセンゴケの雑種起源の分類群であり、上記の名前で記載された。これまで東海地方と近畿地方、四国香川県に知られているもので、花の形態は記載されていないが、和名からコモウセンゴケに近いものと考えられる。

1) 〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学教育学部生物学教室



図2. キレハヒメオドリコソウ (長崎市)

長崎県で発見した上記の産地では、コモウセンゴケとモウセンゴケが接して生育している場所で、植物体も花も両種の間形の形態をしており、明らかに雑種と思われ、一応トウカイコモウセンゴケとしておきたい。東海・近畿地方のトウカイコモウセンゴケとは起源が異なるもので、今後比較研究をする必要がある。

318. ケチドメグサ *Hydrocotyle dichondrioides* Makino (セリ科)

長崎市野母崎町遠見山東谷 [野母崎 3, 4829-76-02] 15m, Feb. 18. 2007, (No. 20182)

チドメグサやヒメチドメグサにて、茎は地面をはうが、葉裏と葉柄に白毛がある。九州から南の亜熱帯から熱帯に分布するが、九州は今のところ南部に限られているようであり、上記の産地は北限となる。生育地は谷の湿った岩上である。これまで注目されてこなかったが、今後長崎県各地で発見される可能性がある。

#### 新産の帰化植物

319. キレハヒメオドリコソウ (シソ科) (図2)

長崎市三つ山町六枚板 [長崎 1, 4929-17-52] 40m, Apr. 17. 2007, (No. 20192)

和名のように葉には荒い鋸歯があることが特徴で、ヒメオドリコソウよりも花は大きく美しい。上記の産地にはミ

カン畑の雑草として生育していた。

320. マルバトゲヂシヤ *Lactuca scariola* L. f. *integrifolia* G. Geck. (キク科)

長崎市小江町 [長崎 3, 4929-16-05], 1 m, Dec. 24. 2006, (No. 20163)

トゲヂシヤは葉の切れ込みがよく発達し、羽状になるが、マルバトゲヂシヤは切れ込みがなく、葉が細くなる品種である。

#### 希少植物の産地追加

252. コウラボシ *Lepisorus uchiyamae* (Makino) H. Ito (ウラボシ科)

佐世保市宇久島マグラ [小値賀島 1, 4929-71-00], 10m, Sept. 24. 2006, (No. 20063)

海岸近くの岩の間に生育する小型の着生シダである。上記の産地は大岩保雄氏の発見によるものである。

253. テツホシダ *Cyclosorus interruptus* H. Ito (ヒメシダ科)

西彼杵郡時津町前島 [大村 4, 4929-26-34], 2 m, Sept. 29. 2006, (No. 20043); 西海市西彼町湯島

大村湾沿岸では唯一西海市西彼町風早郷から知られていたが、上記の2カ所の島にも生育し

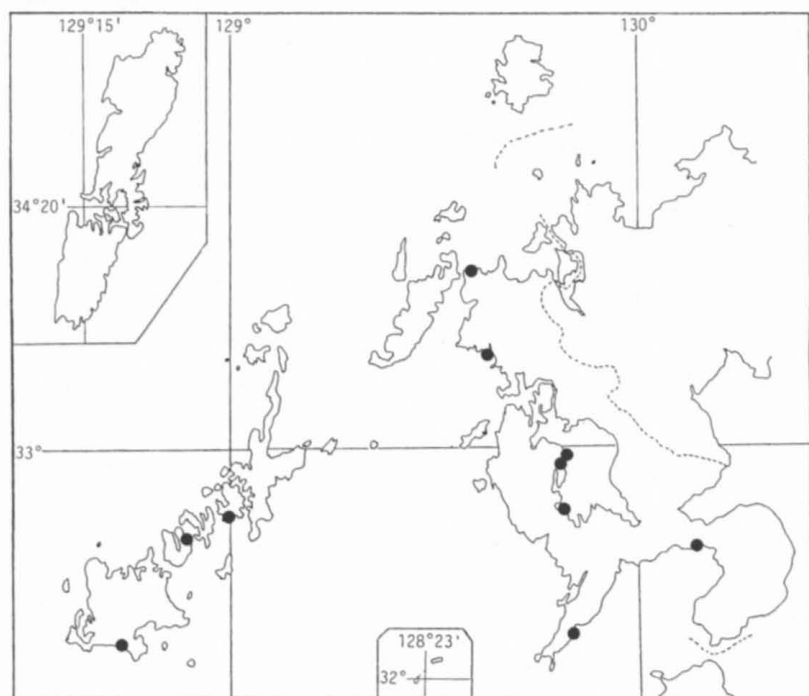


図3. テツホシダの分布図

ていることを発見した。いずれも海岸近くの低湿地で、前島ではススキ、ヨシなどと共に群生しており、湯島ではオオミズゴケと生育していた。長崎県ではこれまで10カ所の生育地が知られ、その内3カ所が大村湾沿岸である(図3)。  
254. キノクニスゲ *Carex matsumurae* Franch. (カヤツリグサ科)

西彼杵郡時津町鷹島 [大村4, 4929-26-36], 5 m, Aug. 24. 2006, (No.20078); 同郡同町黒島 [大村4, 4929-26-67, 3 m, July 17. 2006, (No.20093)]

本種は主として無人島に生育していることが知られており、大村湾においても大村市白島に知られていたが、上記の2つの島にも生育していることを発見した。鷹島は今は無人島であるが、かつては人家が数軒あった島である。この島には多数の個体が生育していた。これらの島はいずれもタブームサシアブミ群集あるいはそれに近い組成の森林に被われている。長崎県内ではこれで9カ所の産地があることになり、その内無人島が6カ所、陸けい島が1カ所、有人島が2カ所である(図4)。

255. コウシュンシバ *Zoysia matrella* (Linn.) Merr. (イネ科)

西海市大島町寺島 [佐世保南部2, 4929-45-41], 5 m, Aug. 28. 2004, (No.19753); 佐世保市宇久町大浜 [小値賀島1, 4929-71-00], 8 m, Sept. 24. 2006, (No.20066); 大村市白島 [大村2, 4929-27-75], 1 m, June 18. 2006, (No.20119)

これまで県内では有川町、生月町、口之津町から知られていたが、上記の地にも生育しており、生月島以南の各地の海岸に生育していることがわかった。宇久島では多くの海岸植物と共に群生しており、踏みつけの強い所だけシバに置き代わっていた。シバよりも踏みつけに弱いことを示している。

256. コウライシバ *Zoysia tenuifolia* Willd. (イネ科)

佐世保市宇久町平郷 [小値賀島1, 4929-71-21], 2 m, Sept. 24. 2006, (No.20063)

コウシュンシバに比べてさらに葉は細く針状であり、生態的にもより汀線に近い波しぶきがかかるような岩上に生育している。

257. シズイ *Schoenoplectus nipponicus* (Makino) T. Koyama (カヤツリグサ科)

長崎市琴海町飯盛山東ドブ池 [神浦1, 4929-35-19], 450m, Oct. 28. 2006, (No.20128)

これまで西海市大瀬戸町と東彼杵町から知られていた(中西1995)。上記の産地も個体数は少ない。

258. シバナ *Triglochin maritimum* L. (シバナ科)

長崎市琴海町西海 [大村4, 4929-26-33], 0 m, Dec. 16. 2006, (No.20168)

広く分布するが、埋め立てや護岸工事で少なくなっており、絶滅危惧種に指定されている。長崎市からは初めての発見である。

259. ウミヒルモ *Halophila ovalis* (R. Br.) Hook. fil. (トチカガミ科)

西彼杵郡時津町前島 [大村

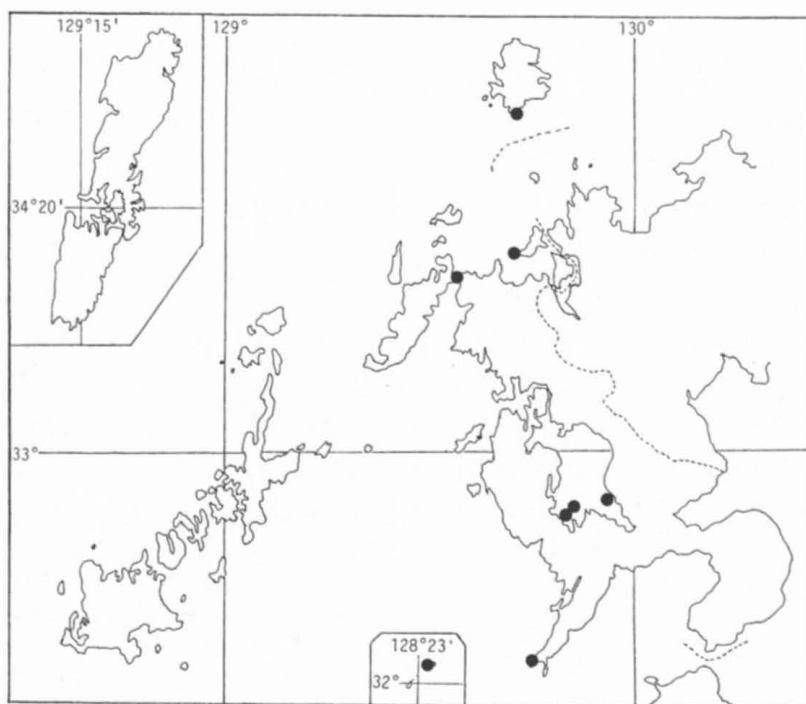


図4. キノクニスゲの分布図

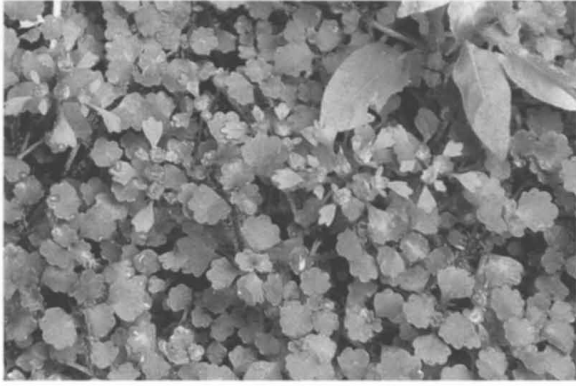


図5. ツクシネコノメ (長崎市)

4, 4929-26-34], 0 m, Dec. 16. 2006, (No.20166)

小型の沈水植物で、浅い海底に生育する。県内ではこれまで10カ所の生育地が知られ、そのうち6カ所が大村湾となる。

260. コアマモ *Zostera japonica* Aschers. et Graebn. (アマモ科)

西彼杵郡時津町前島 [大村4, 4929-26-34], 0 m, Dec. 16. 2006, (No.20165)

干潮時には干上がる浅海の砂泥地に群生する。前島北部には生育地が多い。

261. ツクシネコノメソウ *Chrysosplenium rhodospermum* Maxim. (ユキノシタ科) (図5)

長崎市大山町 [長崎2, 4929-07-20], 300m, Apr. 8. 2007, (No.20194)

コガネネコノメソウに似ているが、萼裂片は黄色ではなく、淡緑色で、葉の表面の毛は長く、1-1.5mmある。これまで県内では雲仙岳と多良岳に知られていたのみである。佐藤太氏が発見されたもので、現地を訪れ採集することができた。

262. シマキケマン *Corydalis tashiroi* Makino (ケシ科)

大村市白島 [大村2, 4929-27-75], 1 m, June 18. 2006, (No.20115) ; 南島原市加津佐町岩戸山 [口之津1, 4929-71-42], 50m, Apr. 28. 2007.

本種の現存する生育地は長崎市野母崎町岬木

場、同市三和町宮崎、西彼杵郡長与町堂崎のみであったが(中西2006)、上記の地に生育しているのを発見した。キケマンに比べて小型で弱々しく、キケマンの若い個体と似ているが、果実があれば容易に区別できる。生育地は波浪の影響が少ない海岸か沿岸部である。

263. ヒメナミキ *Scutellaria dependens* Maxim. (シソ科)

諫早市久山町 [長崎1, 4929-17-99], 2 m, July 4. 2003, (No.19714)

外山(1980)は島原半島、西彼杵半島、福江島から記録しており、中西(2002)は佐世保市江上浦町から記録している。生育地は佐世保市江上浦町の産地と同様に沿岸部の水田の縁である。

264. コナミキ (シソ科)

大村市白島 [大村2, 4929-27-75], 1 m, June 18. 2006, (No.20117)

海岸近くの林縁に生育するまれな植物で、これまで知られていた確実な生育地は長崎市と佐世保市のみであった。一見ヒメナミキと似ているが、下部の葉には長い葉柄があることで容易に区別できる。

## 引用文献

- 松林文作 1981. 長崎県シダ植物誌. 104pp., 長崎県出版文化協会, 長崎.
- 中村俊之・植田邦彦 1991. 東海丘陵要素の植物地理. II. トウカイモモウセンゴケの分類学的研究. 植物分類地理42: 125-137.
- 中西弘樹 1995. 長崎県植物誌ノート (14). 長崎県生物学会誌45: 13-16.
- 中西弘樹 2002. 長崎県植物誌ノート (25). 長崎県生物学会誌54: 1-4.
- 中西弘樹 2006. 長崎県植物誌ノート (29). 長崎県生物学会誌61: 9-11.
- 外山三郎 1980. 長崎県植物誌, 321pp., 長崎県生物学会, 長崎.